

がんばっています！

まちのものをづくり企業

割りません。「切る」のです！

(株)ミタカ電機



## テ

レビ番組などで何度も取り上げられている、ミタカ電機の自動割卵機「割蔵」。卵を割る作業は簡単そうですが、生命に関わる重要な作業です。卵による集団食中毒などは、卵の外殻に付着した菌が中身に入り、時間が経つと急速に増殖して起こります。そこで発想を転換し、卵を「割る」のではなく、「切る」ことで殻の混入を防ぎ、中身を取り出す特許技術で割卵に成功し「割蔵」が誕生しました。

ミタカ電機は昭和29年、電機機械および自動車電装品販売・修理の会社として設立。自動割卵機は、平成5年ごろ、市内にある製菓工場から、殻が入らない割卵機を作って欲しいと依頼され着手しました。そこで、ダイヤモンドカッターに着目し、卵を「切る」発想で試行錯誤を繰り返し、商品化に至りました。

吉本社長は、「卵は楕円形で大きさはさまざま。大きさの違う卵の重心をそろえて、同じ深さだけカッターで切り込む調整に苦労しました。」と割卵機開発の苦労を話されました。切った後の殻は真円に切れ、安心・安全に卵の中身を取り出すことができます。その切り口は美しく、パティシエたちがその殻をうつつわにする程です。

現在は、長崎のカステラ製造業をはじめ、製菓業を中心に納品していますが、衛生面が評価されて日本各地の給食製造施設などにも多数導入されています。

同社長は、「ものづくりは大変だが、情熱を注ぐだけの価値がある。この割卵機をもっと進化させて、海外でも通用するものづくりに取り組みたい」と意気込みを話されています。



(株)ミタカ電機  
松並1丁目941-1 ☎033440  
代表取締役 吉本登氏



## 社員さんからひとこと

山口秀明さんは入社16年目。割卵機の製造から販売まで手がけ、テレビでも実演されたそうです。「他にない機械を製造しているのでやりがいがあります。特に割卵機は、製造当初から携わっている所以思い入れがあります。」と語っていただきました。

